住まい活動助成

谷瀬地域受入協議会

奈良県十津川村

中山間集落における空き家のDIY整備を通した集落住民と来訪者及び集落内の新旧住民の交流の場づくり

近隣の集落住民との交流イベントでイモを収穫

活動エリア

団体設立経緯

紀伊半島の内陸に位置する山村である十津川村の**谷瀬集落**は、年間20万人余りの観光客が訪れる「**谷瀬の吊り橋**」を渡った先にあります。過疎化により、このままでは集落が消滅するのではという危機意識が、住民の中で徐々に広がりはじめました。そこで集落を開き外の人を受け入れることを決め、「**ゆっくり散歩道**」の整備や、集落の暮らしの魅力を感じてもらう「**ゆっくり体験**」を開始しました。その活動を1つのきっかけとして移住者が現れるようになり、新旧住民の交流、そして地域の魅力の発信をより推進するため、有志が集まり2015年に当協議会を組織しました。

活動概要と活動対象範囲

集落内にある空き家2軒を、新旧住民や来訪者が集いにぎわいのある拠点施設とするため、改修を進めました。ゆっくり散歩道沿いにある「**こやすば（小休場）**」は、建物修繕に合わせて囲炉裏や四阿（あずまや）を設置。田舎体験ハウス「**たまおか**」では、水道を整備しました。

新旧住民や外部住民との交流イベントや、暮らしを魅せる交流イベント「**ゆっくり体験**」を開催。集落の暮らしや風景といった魅力を発信するための取材や、集落の魅力を説明する看板の整備を進めました。

活動に至った理由や背景

谷瀬集落では地域の活動については、住民が話し合う**寄合**の場で決定する風習になっています。その中で、若い世代の新住民（移住者）にも積極的に地域活動に参加してもらうには、旧住民と気兼ねなく交流できる場所と機会が必要との意見がまとまりました。

住民が話し合う寄合。移住者の意見も汲み上げる

具体的には、**NPOスローライフ・ジャパン**に企画への助言を仰ぎ、地域の魅力発信イベントや活動拠点整備などの活動には**奈良女子大学**の室崎千重研究室が携わる体制で、協働による活動をスタートすることとなりました。

活動内容と成果

●寄合

年度当初に寄合を開催し、年間の交流イベント内容や作業行程などを決定することとしていました。新型コロナウイルスのまん延防止の観点から、当初予定していたプログラムを見直し、外部を含めた多人数での集会やイベントは控え、屋内での交流イベントは屋外で可能なイベントに変更して調整しました。

役員と協力団体であるNPOスローライフ・ジャパン、奈良女子大学との間でリモート会議により行事内容や大まかな日程を決めて、活動を開始しました。2021年7月2日の1回目の寄合では、今後の活動である「空き家のDIY」、「集落住民と来訪者との交流」、「新旧住民の交流の場づくり」について、スケジュールの確認やコロナ禍での代替策などについて意見を交換しました。新たなイベントについては、秋の収穫祭をどこかでできればとの意見が多くあり、サツマイモの収穫と併せ焼き芋イベントの実施が決定しました。

11月3日、2回目の寄合では、7月以降の「ゆっくり散歩道」や「こやすば」、「たまおか」の整備状況の確認、また魅力発信交流イベントとして、酒米の「稲刈り」、新旧住民の交流イベントの状況を報告。DIYで今年度中に整備予定の囲炉裏については、完成期限とお披露目会開催の時期を決めました。

なお、Zoomで参加した協力団体の奈良女子大学の学生からは、谷瀬の魅力を発信するQRコード付き看板の提案などがあり、整備する方向で決定しました。

当日は東京、埼玉、静岡からNPOスローライフ・ジャパンの会員が参加。外部からの視点で、生産活動の方向性や魅力の伝え方などについて、良いアドバイスをいただきました。

●新旧住民との交流イベント

新旧住民による交流会については、アウトドアで実施できる内容に変更しました。6月12日、他地域の子どもにも参加を呼びかけ、総勢15名でサツマイモの苗を植え付けました。また9月21日には、中秋の名月イベントとして、昔は各地域で行われていた「**いもたばり**」を復活させました。子どもたちが各家々を回り、縁側にお供えしている芋を「たばらせて」と言っておさがりしていくもので、昨今ではお菓子がメインになっているようです。収穫に感謝する風習の1つを、新旧住民の間で再現することができました。

6月に植え付けたサツマイモにつ

新旧住民の交流の一環。子どもとサツマイモの苗を植え付ける

かつての地域の風習「いもたばり」を復活させた。収穫への感謝の気持ちを込める

幼児も参加した「こやすば」の四阿（あずまや）づくり

雪が降るなか、「ゆっくり散歩道」にある水車を修繕

晩秋から着手した囲炉裏の設置。防火対策を徹底するために耐火ブロックなどを仕上げに採用した

いては、11月3日に収穫祭として掘り起こしをして、焼き芋にして食べる交流体験イベント実施いたしました。年末に予定していた交流会・クリスマス会は内容を変更。12月19日に、役員がサンタクロースやトナカイの扮装で、集落内の子どものいる家庭にクリスマスプレゼントを配りました。

●空き家DIY

夏休み前の7月18日に「ゆっくり散歩道」の再点検と清掃を兼ねて、起点の吊り橋から終点の展望台までパトロール。看板をチェックし清掃しました。

秋の行楽シーズンや集落の魅力発信イベントを開催する前に、「こやすば」、「たまおか」を修繕し、集いの場の整備を進めました。まず8月の後半の日曜日2週にかけて、「こやすば」にトイレの照明と四阿を設置しました。四阿の塗装は親子連れの幼児も参加し、ワイワイしながらの作業となりました。

9月に入ってからは「ゆっくり体験」や交流イベント時に利用できるように、「たまおか」の水道の水源地整備と宅内水道の修理を併せて実施しました。これにより、農業体験後のシャワーの利用や、台所やトイレといった田舎暮らし体験をするための必要最低限としての水道設備が整いました。

今回のDIYにおけるメインの作業であった囲炉裏の設置については、秋に入ってから着手しました。床下の状況確認や準備する物の確認を経て、各家々からは資機材を持ち寄り、作業をスタートしました。

床下の根太が腐食している箇所も多かったため、まずは床をめくり補強しました。その後、設置位置や規模を決定するため、金曜日の会という特別寄合を数回開催し、作業内容、行程を決めて行動に移しました。囲炉裏が原因での「火災は起こさない」ことを最優先に、防火対策としてコンクリートブロックの壁と赤土、耐火ブロックで仕上げを施しました。天板についてはヒノキ材を選定し、加工については移住者の木工家具製作者が担当。その仕上がりは、DIYの域を超えた完成度の高いものとなりました。

●魅力発信イベント

休耕田の解消と特産品づくりとして、15年から酒米づくりを都市部住民と協働でスタートしています。春先の一部の体験については、協力団体である地域大学生との作業は見合わせ、地域住民と地域おこし協力隊などで実施。田植えから稲刈り、ハザ掛けまで行いました。

このプログラムでは、過去から現在まで作業の変遷を説明した上で、手作業と機械作業の双方を体験してもらっています。特に、山間へき地での米づくりの特徴でもあるハザ掛けなど、ひと手間かけたものづくりを地域の魅力の1つとして発信しています。

伝統食など食文化の魅力発信イベントとしては、収穫したサツマイモを材料に、昔ながらの保存食「**ほしかいも（干し芋）づくり**」を実施。また、地域の伝統食「**めはり寿司づくり**」体験も開催しました。長年この地で栽培されている在来種の高菜の漬物で、ご飯を包んだ携帯食です。「目を見張るほど大きい、目を見張るほどおいしい」といった名前の由来も解説、保存に特化した食文化の魅力を発信しました。

都市部の住民との交流イベント、干し芋づくり

インスタグラムなどSNSでの情報発信も始めた

完成した囲炉裏を囲んで、お披露目会と活動報告

●お披露目会および活動報告会

DIYで最終となっていた囲炉裏と照明類の設置も完了したため、22年2月26日に、「こやすば」のお披露目と活動報告会を開催しました。今年度の9カ月間のふり返りと、今後の活動していく上でのポイントなどを共有しました。

外部の力と共に！：労働力の不足やアイデアは外部の力を借りよう

特産品には物語を付けて！：素材や加工技術の背景を説明していこう

伝える必要性を考えて！：活動内容はしっかり記録して情報として発信しよう

●情報発信

インスタグラムではハッシュタグを「#谷瀬おさんぽ日和」に統一。7月以降、Facebookと併せて地域の情報発信を開始しました。掲載する素材として、谷瀬での暮らしぶりが伝わる写真を整理しました。

また「**ゆっくり散歩道ガイド（マップ）**」を作成。回遊を促すため、谷瀬の吊り橋を渡った所に、集落内の開花状況や見どころを記したウェルカムボードを設置しました。

課題と解決方策

新旧住民の対面での交流イベントについては、コロナ禍により積極的には開催できなかったこともあり、活動実態を知ってもらえなかったのではと思われます。また、今回の整備や修繕については、専門的な作業が多く、参加者を選んでしまっていたのではないかと、全体を振り返って感じています。

今後、新住民や地域の若者にこの活動にどう関わってもらうか、単にイベント参加者ではなく、主催者側へ巻き込んでいくかが課題です。新住民にも、施設周辺の清掃など軽作業への参加や、農作物の栽培から加工作業の参加についても積極的にアプローチします。また外部の住民の方々に対しては、もっと「ゆっくり散歩」や「ゆっくり体験」に参加いただいて集落の魅力を肌で感じてもらい、何度もこの場所へ訪れてもらうファンになっていただけるよう、環境整備と情報発信を継続していきたいと思っています。

今後の予定

実際に集まることができる拠点の整備はできました。この施設を活用して、収益が上げられるような取り組みにまで発展できればと思います。また、子どもが安心して集える場所として、遊具を備えた小規模でも良い公園などの整備に向けて、検討を進めます。

そのために、今まで実践してきた「話し合う、実践する、検証」という活動サイクルを大事にし、しっかり目標を立てて地域が今後も持続していけるように、活動を続けていきたいと思います。

谷瀬地域受入協議会

2015年12月設立／メンバー数：21人／代表者：坂口 哲夫（さかぐち・てつお）
www.facebook.com/totsukawa.tanize/

谷瀬集落では高齢者から子どもまで、みんなにとって生きがい、暮らしがいのある地域にすることを目指します。地域の魅力を発信し、地域外の人々を地域内に招き入れる場所と仕組みづくりを手がけています。